

令和7年度 東京都立足立特別支援学校 学校経営報告

校長 鈴木 常 義

1 今年度の取組と自己評価

【A 学ぶ】

(1) 人権を尊重した教育の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①生徒の人権に配慮した指導の徹底	ア 適切な援助希求行動の育成（SOSの発信）	適宜（全教育活動）	適宜実施	◎
	イ 人格を尊重した「さん」呼びの推奨	適宜（全教育活動）	適宜実施	◎
	ウ 自己肯定感、自尊感情や互いを思いやる気持ちの育成	適宜（全教育活動）	適宜実施	◎
	エ 乱暴な態度や言葉、追い込む指導等の禁止	不適切な指導ゼロ	不適切指導ゼロ	◎
②体罰・いじめの早期発見の推進と防止の徹底	ア 体罰を生まない職場風土醸成のための研修の実施	年間3回以上	3回実施	◎
	イ いじめ早期発見の徹底（チェックリストの実施）	各学期1回	学期1回実施	◎

(2) 根拠に基づく授業改善と教員の専門性向上

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①アセスメント、外部専門家の活用による授業改善	ア 専門家（障害当事者・OT・PT等）による授業観察及び評価	年間15回以上	44回実施	◎
	イ 外部専門家を積極的に活用した授業改善の推進	各科・教科1回以上	11教科全て提出済	◎
②主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善の推進	ア 授業者支援会議方式による研究授業の実施	年間15回以上	84回実施	◎
	イ 授業に関する生徒評価の満足度の向上	肯定的評価90%以上	89.3%	○

(3) 自立の礎となる生活指導の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①ルールを守る安全・安心な学校生活の実現	ア 校訓（誠心誠意）と「あ（挨拶）・じ（時間）・み（身だしなみ）」の指導	毎月1回以上（学年集会等）	毎月実施	◎
	イ 生徒ハンドブックを活用した指導（生活のきまり）	毎月1回以上（学年集会等）	毎月実施	◎
	ウ 生活指導だよりの発行	年間3回以上	4回	◎

②安全・安心な通学環境の整備	ア スクールバスの安全な運行と車内事故の防止	年間車内事故ゼロ	事故ゼロ	◎
	イ スクールバス連絡会、乗務員研修会の実施	年間3回以上	4回	◎

(4) オリンピック・パラリンピック教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①学校2020レガシーの構築に向けた取組の推進	ア 「4×4の取組」を明確にしたオリンピック・パラリンピック教育の実施	全教科で実施	全教科で実施	◎
	イ アダプテッド・スポーツを取り入れた体育活動の充実	体験3種目以上	3種目実施	◎
	ウ 芸術・文化活動の推進	3展覧会以上出展	8展覧会出展	◎
	エ 国際交流の実施	各科隔年で1回以上	普通科3年で実施	◎

(5) 読書活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①生徒が図書に親しむ環境づくりと学校図書活用の推進	ア 読書活動の推進	校内POPコンテスト	実施	◎

(6) 主体性を育む防災教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①現実的な防災・避難訓練の実施と体制整備	ア 現実度の高い避難訓練の実施	年間3回以上	12回	◎
	イ 伝言ダイヤルを活用した緊急時連絡訓練の実施	年間2回	2回	◎
	ウ 教員の救命技能認定証取得奨励	取得率100%	取得100%	◎
②地域と連携した大規模災害対策の検討	ア 地域と連携した総合防災訓練の実施	年間1回	2回	◎

(7) 安心・安全な環境整備

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度数値目標	達成数値	達成度
①未然の事故防止意識の高揚	ア 学習環境の安全点検の実施	年間2回	2回	◎
	イ 学習指導案に事故防止策の記載	研究授業時に必須	100%	◎

(8) 体育健康教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 多様な運動機会の創出	ア 体育健康教育推進校としての実践継承	研究授業	授業の中で実践継承	○

(9) 芸術教育推進事業

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① オンライン学習を含めた授業の充実	ア 活動内容の充実	生徒の授業満足度 90%以上	89.8%	○

(10) ICT教育の推進

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① オンライン学習のための環境整備	ア デジタル教材の開発	各教科 1 点以上	各教科 1 点以上作成	◎

【B つながる】

(1) 自立と社会参加を目指す進路指導・職業教育の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 各種検定を活用した学習意欲の向上	ア 漢字能力検定、日本語ワープロ検定等の受検推進【普・職】	検定参加者延 80 名以上	45 名 (漢 42 P 3 名)	×
	イ 各種技能検定 (清掃、喫茶接客、流通等) を活用した意欲向上【普・職】	検定参加者 20 名以上	職 14 名 家政・フォークリフト 普 13 名	◎
② 作業学習・職業に関する専門教科の指導の充実	ア 普通科各作業班の作業内容の充実【普】	作業学習生徒満足度 90%以上	91%	◎
	イ 作業製品販路の充実【普】	年間売上 20 万円以上	233.000 円	◎
	ウ 家政・流通の活動内容の充実【職】	専門教科生徒満足度 90%以上	87%	○
	エ 商品の開発・研究と外部販売の充実【職】	年間売上 100 万円以上	1.041.640 円	◎
③ 実業意欲向上プログラムを活用した作業学習の充実	ア 葛飾商業高校との連携による販売と作業製品改善【普】	年間 5 回以上、モニター 1 回以上	実施なし	×
④ 外部専門家を活用した指導の充実	ア 外部専門家による作業内容、方法の指導・助言	年間延 100 時間以上	168.5 時間	◎
⑤ 個々の実態に応じた進路指導の充実	ア 適性に応じた適切な進路指導の実施	企業就労希望者就労率【職】 100%	企業就労希望者就労率【職】 100%	◎

		【普】 100%	【普】 100%	
	イ 個別移行支援計画を活用した就労支援機関等との引継ぎ	100%	100%	◎

(2) 地域と連携した教育活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 主権者教育の充実	ア 足立区選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施	各科年1回	衆議院選挙により実施できず	×
	イ 関係機関との連携した消費者教育の実施	各科1回以上	4回実施	◎
② 関係機関と連携した支援会議の充実	ア ニーズに応じた適時迅速な支援会議の実施	年間随時	34回実施	◎
	イ 外部専門家（SSW）を活用した支援策の検討	年間10回以上	8回実施	○
③ 地域における社会貢献活動・交流活動の推進	ア 地域関係機関等における環境整備活動（清掃等）の実施	年間10回以上	52回	◎
	イ 地域自治会を招いての交流活動の実施	年間1回以上	防災訓練にて家政で製造したパン等の提供	◎
④ 共生社会の実現に向けた理解啓発活動の推進	ウ 文教大学等でのパン販売実施	月1回以上	11回実施	○
	エ 都立版エリアネットワークの充実	年間20回以上	48回実施	◎

(3) 積極的な発信・広報

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① インターネットを活用した積極的な情報発信	ア 担当する授業の紹介	一人一回以上	授業担当者全員1回以上実施	◎
	イ ホームページの積極的活用	更新年間180回以上	228回更新	◎
	ウ X（旧 Twitter）を活用した迅速な情報提供	発信年間300回以上	420回発信	◎
	エ Teams を活用できる環境整備推進	100% アカウント発行	掲示板を介してアカウント共有	◎
② 職能開発科理解推進の充実	ア 足立区及び近隣区への理解推進の徹底	足立区内全中学校訪問	35校	◎
	イ 職能開発科学科説明会の充実	参加者300名以上	563名	◎
	ウ 出前授業・体験授業の実施	年間3回以上	4回	◎

(4) 経営企画室の経営参画

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 経営企画室職員 の生徒・指導方法 理解の推進	ア 授業参観・研修会への参加	各1回以上	4回実施	◎

【C 語り合う】

(1) 部活動の充実

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 部活動・特別活動 の充実	ア 運動系、文化系部活動の活動促進	加入率 40% 以上	53.2%	◎
	イ 近隣特別支援学校等との交流、合 同練習等の実施	年間3回 以上	8回	◎
② 生徒会交流活動の 充実	ア 近隣交流校（淵江高校）との交流 活動の実施	年間2回 以上	2回	◎

(2) 健康づくりと体力の向上

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 健康の基盤となる 食育の推進	ア 食育だよりの発行	年間4回 以上	4回発行	◎
	イ 食物アレルギーとエピペンの使用 に関する研修の実施	年間1回 以上	1回実施	◎
	ウ 緊急時対応訓練の実施	年間1回 以上	1回実施	◎
	エ 食育相談の実施	年間10回 以上	10回実施	◎
	オ 食育講話の実施	年間1回、参 加15名以上	1回12名	○
	カ 適正なBMI（ボディ・マス指数） の推進	通信3回 以上	3回発行	◎
② 専門家と連携した 指導・相談の充実	ア 歯科衛生士と連携した歯科保健 指導の実施	年間3回 以上	4回実施	◎
	イ 臨床心理士と連携した生徒相談 の実施	年間150回 以上	496回実施	◎
③ 医療的ケアに関する 理解の推進	ア 医療的ケアに関する理解啓発 研修の実施	年間1回	1回実施	◎

(3) 保護者・地域とともに進める開かれた学校づくり

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
① 保護者との連携の 工夫・充実	イ 学校評価アンケート（保護者）の 回収率の向上	回収率 80% 以上	95.8%	◎
② 保護者、地域との 積極的な情報共有の	ア 授業参観週間の実施	50名以上 参加	188名	◎

推進	イ 保護者向け進路説明会の充実	年4回、満足度80%以上	5回実施 満足度90%以上	◎
	ウ 保護者、地域向け防災講演会実施	年1回	2回	◎

(4) ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた職場環境の整備

中期目標と方策	教育活動の目標と方策	今年度 数値目標	達成数値	達成度
①教職員各自の「働き方改革」の推進	ア 教職員の在校時間の適切な把握による自己管理意識の醸成	◎平均超過時間45時間以内85%	超過勤務時間45時間未満81.5%	×
②積極的な業務改善と働きやすい職場風土づくり	ア 「マイプラスワン行動」の推進	全教職員	3回実施	◎
	イ ハラスメントやサービス事故ゼロ、明るく働きやすい職場環境づくり	サービス研修年間3回	3回実施	◎

2 次年度以降の課題と対応策

今年度の学校評価を受け、学校運営連絡協議会より提言された次年度の重点課題を踏まえ、以下の4点を柱として教育活動を進めるとともに、他の課題についてもその具体的方策を次年度学校経営計画に示し、着実に対応を進めていく。

(1) 保護者アンケートの回答率と、外部への発信について

令和5年度より課題として挙げられていた保護者のアンケートの回答率は、昨年度と同程度の高い水準を保っている(95.8%)。学校経営に、保護者からのニーズを適切に反映させるために、アンケートの回収率を高く保つ取り組みを継続していく。また、自らが担当する授業を、教諭がホームページで定期的に公表することやSNSでの発信は、学校の様子を家庭にも伝える試みとして、保護者からも高く評価されている。個人情報保護や写真の公開の同意に、これまでと同じく留意しつつ、今後も積極的な情報発信を継続していく。

(2) 生徒指導について

本年度も生徒アンケートや学校生活に関する面談では、学校生活や指導に対する肯定的な回答が得られており、充実した学校生活を送っていることが伺える。昨年度に課題として挙げられていた「先生が学校生活や進路のことで悩んでいる際に、相談に乗ってくれるか」という質問に対して、「わからない」と答える生徒の数は、本年度は少なくなっている。生徒のサインを教員皆で見逃さないと共に、生徒の援助希求行動を促す指導を、これからも継続していく。なお、「生徒一人一人にあった内容・スピードで教えてください」という質問に対しては、「ややそう思う」という回答が多くなっており、一人一人の実態に即した指導を今後も心がけ、生徒の学ぶ意欲を育てる指導を続けていく。

(3) 教員アンケートの結果について

教員アンケートでの記述意見に関して、管理職や各分掌で適宜対応していることは、建設的なものとして高く評価できる。昨年度と同じく、計画的な業務進行と効率化や、ワークライフ・ balan

スの実現に関しては、課題を感じている教員が多い。業務整理に関して、更に取り組みを進めて頂きたい。また、「生徒一人一人の人権を尊重した適切な対応ができていますか」という項目に関して、「ややそう思う」という回答が約半数であることには、懸念を覚える。より教員の人権意識を高める試みを、組織的に実施していくことを促していく。

(4) ICT教育について

保護者からも教員からも、学校でのタブレットの利活用に懸念や不安を示す意見が多く挙げられていた。生成系のAIの進歩は著しく、特別支援教育におけるICT教育も変革のただ中にあると言える。ICT相談会への積極的な参加を推奨するなど、教員のスキルアップを促す機会を保障する試みを続けていく。